

営農ウィークリーNEWS

「京都茄子」の目合わせ会が 開催されました！



6月15日からJA京都中央の夏季特産品「京都茄子」の出荷がスタートしました！
それに伴い、各地域（乙訓支店、向日支店、大原野支店）で出荷規格の統一を図ることを
目的として、目合わせ会が開かれました。

目合わせ会では、京都青果合同株式会社
京野菜部の安田康二係長から、出荷調製時の
注意点と市場情勢などの報告がありました。
また、生産者から持ち込まれたナスを前に、
「出荷規格に適合しているか」など市場担当
者とともに生産者、JA担当者らで確認しま
した。



さらに、6月1日より運用を開始した農業資材をスマホなどから発注できる「ねっとショ
ップ」の事業紹介も行われました。



＜出荷規格の確認の様子＞
実際に選別して、商品の判断
基準や選別時の工夫などを意見
交換しました。
市場担当者の意見を聞きながら
みんなでしっかり確認！

管内の「京都茄子」は、市場を
通じて、京阪神の量販店で10月
中旬まで出荷される予定です。2
022年産の出荷量は、300ト
ンを見込んでいます。

—TAC information— 農機展示会ふれあい感謝祭を開催！



7月2日（土）全農京都物流センターにて、3年ぶりに農機展示会「ふれ
あい感謝祭」を開催しました。当日は38度を越える暑い日でしたが、約5
00名にご来場いただきました。営農コーナーでは、営農相談や土壌分析の
紹介をおこないました。暑い中お越しいただきありがとうございました！





水稻・カメムシ類の防除を行ってください！

近年、カメムシ類による斑点米が多発し、品質を低下させています。JA管内の西南部地域を中心に発生している**ミナミアオカメムシ**も生育地域を拡大し続けております。住家となる雑草地や休耕田、畦畔の雑草を除去する事で、発生を軽減できます。カメムシ類の多くは、ほ場周辺の雑草管理を徹底することが発生の低減につながります。畦畔などのイネ科雑草で増殖するため、**出穂の2週間前までに水田周辺の除草を徹底して行うことが重要です。**その後、収穫時までは除草作業を控え、水田への侵入を防ぐことも大切です。



晩生品種「ヒノヒカリ」の場合



本年も発生量が多いことが予想されます。キラップ粒剤の併用をおすすめします。

高温対策も忘れずに

- 1 かけ流し灌漑を行う。
- 2 籾数過剰にならないよう1回目の穂肥を半分にする。一発肥料で元肥量が少く追肥をする場合は、追肥量を減らす。
- 3 出穂10～20日前のフジワン粒剤施用(4kg/10a)。出穂10～20日前但し、収穫30日前まで・2回以内「高温登熟下における白未熟粒の発生軽減」。発根促進による吸水量、光合成量の増大を図る。6月5～10日植えの場合、8月5～15日頃施用。 ※投げ込み用の「フジワンパック」もあります。

※フジワンパック(殺菌・植物成長調整剤)
高温登熟下における白未熟粒の発生軽減・登熟歩合向上
出穂10～20日前但し、収穫14日前まで・2回以内、小包装のまま投げ入れる 小包装(パック)15個(1,125g)/10a

